



はまなす荘ステンドグラス



吉田光延 画

発行
 社会福祉法人いわき福音協会
 はまなす荘
 いわき市平中平窪字二堂田2
 〒970-8002 ☎(0246) 8711
 編集責任
 はまなす荘新聞編集委員会

本来ならば、新施設での生活や活動を桜の中で共に喜んでいた筈なのに、三月十一日の地震と大津波がそれらを押し流してしまった。はまなす荘は、浄化槽が破損し、全面取替えの状況。そして、いつ終わるか分からない余震に怯えている毎日。

幸いにも利用者さんに怪我もなく無事であったが、利用者さんの家族・職員には、家を破壊され、身体一つで放り出された人達がいる。

そして原発。私達の仲間の施設は避難を余儀なくされ、県外に緊急避難し、いつ元に戻るのか分からない状況であり、私達もまた、原発の状況によっては、同じように緊急避難せざるを得ない状況におちいることも十分考えられる。

確かに自然の脅威の前には、人間の力などかなわない

桜の中で 所長：新妻 登



事もあろうが、先人達はそれでもそれらの試練に耐え、そしてそれを乗り越えてきた。今、原発というむしろ、人間が造りだした物の前で私達は右往左往している。

いつかそれに耐え、みんなの力でそれを乗り越えられること信じて、一歩一歩、それでも尚、歩んでいきたい。

南限の花

暖かい日が続く中、いつの間にかはまなす荘の駐車場にもたくさん桜がきれいに咲き乱れていました。

桜を見ると春の訪れを感じます。

今年は何年のようなお花見はできませんでしたが、私は家族と一緒にアパートの窓から見える桜を見ながらお菓子を食べて過ごしました。

特に沿岸部の被災者の方々の事を思うと、胸が痛む思いですが、日々の中で少しでも心む出れ事があれば、避難生活の多大なストレスも少しは軽減できるのにと感じます。

まだまだ余震も続き不安な毎日を送っている現状ですが、一日でも早く心休まる日が来る事を切に願って、復興に向けて頑張っていきたいと思えます。

平成23年度事業計画

今年度は、新しくなったはまなす荘で、それぞれ個人ごとの、また、小グループごとの活動を展開していきたいと思っていたが、三月十一日の大地震、大津波、そして原発事故によって、当施設は浄化槽が破損し、まだ仮復旧の状態、日中活動も含め生活全般がままならない状況にあり、原発の状況によっては避難しなければならなくなるといふ不安定の中で新年度が始まりました。

利用者の日中活動は、大小の作業室と外の温室等を活用し、少しでも身体を使うプログラムを組んでいきたい。そして、人としての活動は、施設内にとどまらず、外出活動や地域での買い物、ボランティアの人達の協力によるライフサポート活動など継続して実施し、その中で色々な人達と出会いながら、地域の中で生活できるよう進めていきたい。



カラオケで盛り上がりました

平成23年度行事予定

平成二十三年度の行事については、三月十一日の東日本大震災及び福島第一原子力発電所の事故の影響により、例年通りの予定で進めていません。

原発事故を踏まえて、法人としては、万が一の避難先を検討しなければなら

ず、その一方で、なるべく元の生活に戻し、利用者の精神安定を図るといふことも、現実としては必要なことなので、この正反対とも言える流れの中で、様子を見ながら、外出活動やライフサポートを再開する時期を探っているというのが現状です。



平成22年度事業報告

平成二十二年度の事業報告は、新しいはまなす荘の建設に伴い、仮設施設での生活になってしまいました。

その為、利用者さんには九ヶ月の間、窮屈な思いをさせてしまいました。同年十二月七日に新しいはまなす荘で生活を送れるようになり、支援部門では、利用者さんの願いでもあった一泊旅行を

「苦情解決報告」

早いもので、今年も苦情解決委員会の報告をする時期になりました。昨年度同様、本年度においても「苦情」がなかったことに一安心しているところです。

平成二十二年度のはまなす荘の苦情・要望等の対処状況をみてみると、第一・四半期(四月～六月)二十二件、第二・四半期(七月～九月)十五件、第三・四半期(十月～十二月)十六件、第四・四半期(一月～三月)二十件で

行うことができ、参加した利用者さんは皆それぞれに楽しい旅行ができたと言っていました。

一方、利用者さんの地域生活移行については、十一月一日に一名の利用者さんがグループホームへ移行することができました。

また、福島県からの補助を受け、身体及び知的障がい者地域生活体験事業を平成二十三年二月一日から再開致しました。

総数は七十三件になります。(三月は、東日本大震災があったため、要望は特にありませんでした)

また、要望の内容としては、①医療に関すること(通院の希望や治療・痛み訴えなど)二十六件、②散髪について五件、③衣類の不明や物の購入の依頼・洗濯の始末など支援に関すること四十二件となります。

いずれも、今は小さな指摘ですので、早めに確実に対応し、大きな問題になるのを防げるよう今後共努めていきたいと思っております。

男子棟



前年度の二月末に、はまぎく荘のグラウンドに建てた仮設プレハブに引っ越してから、九ヶ月後の十二月七日に改築後の新しいはまなす荘に返る事が出来ました。

七月に通いの生活介護で徒歩で通っていた久保木泰宏さんが亡くなりました。日差しよけのゴーヤや朝顔のプランターの成長を楽しみに、暑い中、水を上げていた姿が印象に残っています。また、十月末で今まで十九年生活を共にした勝野勇さんがグループホームに引っ越しました。それから、地域生活を希望している伊藤昌宏さんが日中活動の場として、十一月よりかがやきと契約し、張り切って出掛けています。

年度末の三月十一日に東日本大震災が発生し、原発の放射線の影響もあり、その後

医務



桜も咲き乱れる暖かい陽気の中、三月十一日は生涯忘れる事のできない日となりました。待ちに待ったはまなす荘改築も無事に済み、皆で喜んだのもつかの間、私達東北住民

には辛く悲しい瞬間となり脳裏に焼きついています。

これからは、この一年間を振り返る事より、利用者さんと共に今回の未曾有の被災をどう乗り越え、出発するかが最も重要といえます。

一日も早く不安のない日常生活にもどれるように祈り、また、利用者さんを心身ともにケアしていかねければなら

ないと痛感しています。頑張りう福島！

女子棟



昨年暮れに新はまなす荘に引っ越して四ヶ月が過ぎようとしています。

平成二十二年度は、改築という大きな動きがあり、仮設での生活・新しい施設での生活と利用者さんも大変な気苦労をしたと思います。

平成二十二年度までに二十七名の方が退所し、地域などで新たな生活をしています。現在、女子棟は三十三名となっていて、人数が半分になったことで利用者さん同士の関係も大きく変化したと思います。

厨房



1年を振り返って



勤務で、あっという間の一年でした。

特殊な業務委託の形式なのでとまどいもありましたが、調理師さんや支援の方々の協力もあり、なんとか食事提供を行う事ができました。

年度末の大震災では、利用者さんの皆様には不便な思いをさせてしまったとは思いますが、何とか一日三度の食事

を色々工夫しながら提供する事ができました。御家族や職員の方にも食材の提供をして頂き、バランスのとれた食事を摂る事ができました事、心より感謝いたします。

今後も今まで以上に配慮し、安心・安全な食事提供をしていきます。



これからも楽しく・明るく・元気な生活が送れるように支援をしていきます。



節分



二月三日「節分」の日に、新はまなす荘の食堂にて第一回目の豆まきが行われました。

食堂は広く天井も高く、のびのびと行う事が出来、等身大の大ききの鬼に向かい、年男・年女の利用者さんも勢いよく豆をぶつけて厄払いを行いました。

「今年一年、健康でありますように……」と願った後に、おいしい甘酒と福豆(甘納豆)を食しました。この甘納豆も砂糖不使用の製品でとてもおいしく頂きました。

利用者さん達はあっという間に食べ終え、満足そうな笑顔がたくさん見られました。



豆まきをしました

花見



去る四月二十日(水)、みはま体育館にて花見を行いました。

当日は天気も良く、はまなす荘からみはま体育館に続く坂道に咲き誇る桜を眺めながら徒歩にて移動し、みはま体育館にて、四組に分かれてのチーム対抗にて、玉入れ・綱引きのゲームを行いました。どの競技もとても盛り上がり、中でも職員対抗の綱引きは、利用者さん全員の声援と

毎年恒例の保護者・O・B・職員研修会を三月五日に新舞子ハイツで行いました。保護者十六名の他に、退所した利用者さんの保護者の参加もあり、久しぶりに昔の話に花が咲いていました。
『新はまなす荘の紹介・一年間の状況報告』では十二月七日に引越してからの生活の様子を、支援・医務・庶務の

保護者との研修会

各立場から報告をいたしました。
『親・家族の思い』と題しては、親の立場と兄弟の立場と違う立場でお話をしていたいただき、保護者の切なる思いを知りました。その中で利用者さんと保護者と職員の三つの信頼関係が大事であることを痛感しました。爽やかな言葉が沢山聞けるようにしたいものです。

歓声の中、大いに盛り上がり、ゲームの方も白熱しました。ゲーム後、昼食の美味しいお弁当を食べて終了となりました。



一生懸命つなひきました

はまなす荘竣工祝賀会

去る一月二十七日(木)に新しいはまなす荘が落成した事を祝して、日頃お世話になっている関係者の方々を招いて竣工式及び祝賀会が行われました。

式典には、吉野正芳国会議員、新村正俊福島県いわき市振興局県民部長、本間静夫いわき保健福祉部長より、ご祝辞を頂きました。また、席上施行業者への感謝状贈呈を行いました。その後、祝賀会が行われました。



立食形式での昼食です

施設の老朽化や福祉事業の多様化などに対応するため、平成二十一年十二月から建設が進められ、『木のぬくもり』を生かした木造平屋建てで、ユニバーサルデザインを中心に考えた施設で平成二十二年十二月に完成しました。

今回ののはまなす荘建設には、国・県・市の補助を受け、たことは基より、多くの御支援・御協力を賜り、総事業費約六億六千万円で完成しました。



たくさんの方にお集まり頂きました

震災時、施設で生活している利用者さんは怪我もなく全員無事でしたが、ライフラインが断られたことで利用者さんに与える影響が懸念されました。しかし、市災害対策本部をはじめ、多方面からの救援物資等の支援を受けたことにより、不安を感じることなく、利用者さん・職員とも頑張っています。

はまなす荘も地震の影響により断水となり、ライフラインの一部が寸断されました。また、浄化槽が破損してしまい、使用不能の状態になってしまい、復旧までにはかなりの時間を要することになってしまいました。

去る三月十一日に起きた東日本大震災は東北から関東までの広範囲に亘り、多くの人々が被害を受けてしまいました。特に津波による被害は膨大であり、多くの方が亡くなられたり行方不明になっていることを思うと、本当に心が痛みます。また、地震の影響で福島原発事故が起きてしまい、放射能という目に見えない敵に日々不安の中にあるのが現状ではないでしょうか。



▲▼地割れです



▲▼地盤沈下してしまいました



▲たくさんの本が落ちてしまいました



▲▼地割れです



▲救援物資を届けて頂き、ありがとうございました

地震・原発による はまなす荘の状況報告



トピックス

防災係より



二月二日午前二時ごろ、自立訓練室のコタツのコード線のショートにより、火災が発生してしまいました。

火災は同室の畳・壁紙・こたつの一部を焦がす程度で鎮火しました。

皆様方には大変なご心配・ご迷惑をお掛け致しましたことを深くお詫び申し上げます。幸いにも負傷者はいませんでした。この火災を忘れないために、教訓として施設内の目につきやすい場所に防災標語を設置しました。

- 便利さに慣れて忘れる火の怖さ
- 災害は、忘れた頃にやってくる

防火365日



ショートステイ



係より

短期入所は在宅の障害児・者を介護する保護者が、疾病・出産・事故等の社会的理由・また、旅行・休息・生活訓練等の私的理由によって家庭での生活が困難になった時、一時的に施設入所ができるというものです。

短期入所を利用される方は、利用希望の確認(電話連絡)、施設見学・事前調査契約、利用日予約、短期入所利用という手順で利用する事が出来ます。尚、短期入所の利用枠は一日あたり四名(男子二名・女子二名)となっておりますので、予約については利用調整をさせて頂いております。



入所者紹介

坂路城新さんが三月三十一日付で、榊原一文さんが四月一日付で、それぞれはまなす荘入所となりました。

仲良く楽しく、はまなす荘での生活を送ってほしいと思います。

NewFace Introduction 新入職員紹介



①椎名 麻井(しいなまい)

②事務員

③ガーデニング

④四月十一日よりお世話になっております。縁あってまた戻って参りました。新たな気持ちで取り組んでいきたいと思っておりますので、宜しくお願い致します。

- ①名前
- ②職種
- ③趣味・特技
- ④抱負



退職職員

前嶋美代支援員補助、皆川由紀江支援員補助が三月三十一日付で退職されました。

新しい職場でも頑張ってください。



①村野真由美(むらのまゆみ)

②支援員補助

③山歩き

④四月十三日よりお世話になっていきます。多くの方々との貴重な出会いを大切に、また、自分自身も良い刺激を受けながら、利用者さんの為の適切な支援をしていきたいと思っております。よろしくお願ひ致します。

表彰・寄附



- 上平窪区長 薄葉勝弘様 / 中平窪区長 松崎幸一様 / 八巻英雄様 / プラネットサカモト様 / 伊藤孝一様 / 清水トシ子様 / 菊地千枝子様 / 渡辺紘一様 / 矢吹満里子様 / 宇佐美忠一様 / ㈱協和マイクロ様 / 菅野様 / 北関東空調工業(㈱)様 / 村田基準寝具(㈱)様 / 介護サービスいわき(有)様 / ㈱とらべるばーくオリバー様 / 七宮仁様 / いわき短期大学 様 / ㈱加地和組様 / 森山千代子様 / 松坂屋様 / 猪狩豊様 / 岡田食品様 / 富士園茶舗様 / 澤田行子様 / 鈴木トク子様 / 青木千枝子様 / 佐藤幸子様 / イトーヨーカドー様 / 佐藤はるみ様 / 大和田様 / ニノテック様 / わいわい塾様 / 丹野政一様

編集後記

新年度を迎えました。

震災の影響は心身共に私達に大きな傷を残しましたが、共に協力し合い、助け合って復興に向けて頑張ろうと思っております。